

熊本県_阿蘇山本堂西巖殿寺

持続可能な地域活性化・少子化対策に結びつく取組
〔恋人の聖地 第3回地域活性化大賞 応募様式〕

プロジェクト名	阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院再建プロジェクト～温故知新
申請者(地方自治体名・団体・企業名など)	阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院
1. 地域・施設の特徴	<p><阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院の歴史> 阿蘇山中岳の火口から約1キロの立地で1300年の間、阿蘇山の火口が静謐であるように祈り続けてきた。また、オンドケサンマイリといわれる山伏たちが先導した春秋の彼岸の火口詣でで夫婦の契りを交わすことも多く、オンドケサンマイリをしていることが結婚の条件ともなっていた。</p> <p><熊本地震発生> 2016年の熊本地震により奥之院が大破し、調査の結果、元の部材での修復は不可能なことが判明し、新築での再建を行うこととする。</p> <p><再建、そして再始動> しかし、阿蘇で木造の伝統建築技法での施工ができる業者が手が空かず、熊本地震から6年が経過し、ようやく再建を果たすことができた。また、建築に当たっては、広く寄付を募り、また広報を兼ねてクラウドファンディングを行い、都度都度にプレスリリースを出して、工事の進捗やプロジェクトの進捗を発信してきた。</p> <p>建物が令和4年7月に完成すると再び、恋人の聖地として多くのカップルや若い男女がお参りに訪れるようになった。 現在、阿蘇市観光課と連携し、阿蘇山を恋人の聖地としてリブランディングしていく取り組みを進めている。</p>
2. 地域活性化に結びつく活動目標・目的などについて	<p><活動目的・目標> 温故知新…縁結びの山として阿蘇山を復活させる</p> <p>① 五縁結びの復活、縁結びを通じた地域づくり まだ、火口見学ができないものの奥之院が再建されたことで、これまで「火口を見れないならば帰る」という層を一旦留め、滞留させることができています。また、阿蘇山の信仰について学びきっかけとなっている。</p> <p>②火口に頼らない観光の構築について 今までの阿蘇山は「火口ありき」の観光だった。火口を見るために大型バスで乗り付けてロープウェイでの火口見学、火口を見る人を対象とした物販… 熊本地震から6年が経過し、ロープウェイは撤去され、火口見学はまだ始まっていない。そんな今だからこそ火口に頼らない観光を作らなければならない。今までの火口に頼りすぎていた観光形態から脱却し、温故知新の精神で阿蘇山の歴史を掘り起こし、磨き上げ、現在に通用するものとする。 阿蘇山の山伏は峰入りという修行で途中で二手に分かれ、修行を</p>

	<p>する一団と里を巡り阿蘇山詣でを勤める一団が阿蘇山への誘客を図っていた。今、信仰の山＝パワースポットとして古くからオンドケサンマイリで言われてきた良縁成就の山として再生することを主眼として活動している。</p> <p>③本尊レプリカ作成プロジェクト 阿蘇山上は中岳火口からの火山性ガスにより金属などを腐食させてします。平成13年まで本尊である木造十一面観世音菩薩ほか3体（いずれも県指定重要文化財）が安置されていたが、火山ガスの影響を鑑みて、熊本県立美術館に寄託することとなった。その後は仮本尊を安置していたが、やはり、元の本尊様を拝みたいという声もあり、関係する熊本県文化課、熊本県立美術館、阿蘇市教育委員会と協議したところ、建物を新築しても仏像を元の場所に戻すことはできないという結論に達した。その代わり、レプリカを作成することを提案したところ了承を得た。</p>
	<p>① 五縁結びの復活、縁結びを通じた地域づくり 五縁結びを主とした人と人を繋ぐ縁結びの取り組みは、阿蘇市との協働に発展した。 今まで荒地であった場所を阿蘇市により噴煙公園として人々が憩う場所となり、新築で復興された阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院は縁結びの象徴となった。阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院では、仏様の御手と繋がった五縁紐に自分のお願いを託し、仏様と直接ご縁を結ぶことができる。熊本地震から6年が経過し、再建した奥之院では五縁結びも再開した。7月より10月10日現在で1500本の五縁結びが結ばれた。やはり、恋愛成就を願う赤色の五縁紐が圧倒的に多いのは、縁結びを願う方々の思いの表れだと思われる。</p> <p>② 火口に頼らない観光の構築について キリンホールディングスの被災地支援活動「復興応援・キリン絆プロジェクト」において阿蘇山の歴史を掘り起こし、住職が先導して寺跡の草原を歩き、地元の食材で作った特別な昼食を食べてもらう散策のプログラムを作成した。終着点が阿蘇山本堂西巖殿寺奥之院であり、火口の活動が活発でも草千里や寺跡の草原などを山伏が先導して歩くという火口に頼らない観光の形態を新たに作った。</p> <p>③ 本尊レプリカ作成プロジェクト 阿蘇カラクリ研究所を通して、熊本県産業技術センターに協力を依頼し、熊本県立美術館において産業技術センターの3Dスキャナーを持ち込み、木造十一面観世音菩薩の3Dデータを撮影し、データ処理を行い、1/10スケールのサンプルを作成した。 今後は原寸大（約1800mm）のレプリカを作成する予定である。 熊本県では初の試みであり、関係各所と協議を行っている。 この取り組みが成功すれば、管理の難しい無人のお堂や環境の悪い中、安置されている仏像を保護する取り組みの端緒となる。</p>
3. 地域活性化に結びつく活動内容・実績などについて	

<p>4. 取組みに関する広報活動・SNS配信などについて (※審査以外での掲出・公表しません)</p>	
<p>5. 活動の効果(地域の反響) (※審査以外での掲出・公表しません)</p>	
<p>6. 数字で表す実践前と実践後の成果・比較 (※審査以外での掲出・公表しません)</p>	

<p>7. 成果・注目ポイント(写真と説明文)</p>	
<p>写真</p> 	<p>写真</p> 
<p>(説明文) 阿蘇山火山口から約1kmの立地。観光地に所在する阿蘇山本堂西蔵殿寺奥之院</p>	<p>(説明文) 新築した奥之院。地元の小国杉をふんだんに使い、伝統工法で建てられた建物です。</p>
<p>写真</p> 	<p>写真</p> 
<p>(説明文) 五色の紐で願い事を表す五縁結び。この紐は御本尊の手に繋がっており、紐を結べば、仏様と直接縁を結ぶことができます。</p>	<p>(説明文) 五縁結びの授与所。無人の時でも、できるよう説明看板を設置しています。お願い事を書く方も多いので、マジックを用意しています。</p>
<p>写真</p> 	<p>写真</p> 
<p>(説明文) 阿蘇山の山伏がどのような活動を行っていたかを地元のガイドの方や行政、研究者の方に説明する活動に力を入れた。そこから、色々な切り口で阿蘇山の歴史が商品となっていった。</p>	<p>(説明文) 3Dデータを3Dプリンターで出力した1/10スケールの奥之院の本尊。これから火山ガス等からの耐久テストを経て、原寸大の物を出力します。</p>